

～～第8381回～～

鋸山

～H30. 2. 24～

房総半島へ77万年前の地磁気逆転地層「チバニアン（千葉時代）」と地獄のぞきで有名な鋸山日本寺を訪ねる。藤枝を5:30に早立ちするものの、東名海老名辺りで渋滞にはまる。電光掲示板の「見物渋滞」という見慣れない表示に何のことやらと思っていると、反対車線の事故見物が渋滞の原因だった。事故現場を通過した途端に快走する。安心したのも束の間、東京湾アクアラインが近づくとまた渋滞。海ほたるPAに入り、沼津SAからやっと休憩をとる。天気は良く東京湾の景色を楽しむ。ここから先は順調に木更津JCTを直進、圏央道を市原鶴舞ICで降り、市原市田淵会館へ向かう。会館にはパンフレットが置かれ、道案内もしっかりしている。地層は予想以上に近く10分ほどで着いてしまった。地層は養老川に面し増水すると近づけないため、長靴を用意していたがその必要はなかった。映像で見た通りの地層があった。これがチバニアンか「ふう～ん」と納得し会館へ戻る。混雑するほどではないものの、次から次へと途切れることなく見物客がやってくる。バスに乗り次の目的地、鋸山を目指す。時間節約のため車中で昼食をとる。圏央道には戻らずに館山道の君津ICから富津金谷ICを経て、内房線浜金谷駅前バスを降りる。遠くに見える石切場跡の岩山が天空の城ラピュタを連想させる。道沿いの観光案内所に寄り鋸山エリアマップをもらう。線路を潜って関東ふれあいの道との分岐を左へとる。富津館山道の高架下を通り車力道に入ると山道らしくなる。車力道は山頂付近で切り出した房州石をねこ車（小型大八車）に積んで港まで搬出するのに使われた道だ。1日3往復、1回240kgもの石を運び、帰りに空の車を担いで石切場まで戻るのは「車力」と呼ばれる女性の仕事だったという。二本の轍の跡が深く刻まれ、苔むした石畳からは往事の苦労が偲ばれる。石切場の断崖下に出ると、鋸山山頂（三角点）と石舞台の分岐だ。三角点はパスし、石切場跡が見学できる石舞台へ向かう。かつての石切場は壮大で、垂直の断崖を眺めながら石をどうやって切り出したのだろうかと思案せずにはいられない。上空の落っこちそうな崖の先端に人が見える。地獄のぞきだ。下から見上げると迫力がある。石切場を抜けると日本寺北口まで階段が続く。北口管理所で拝観料を払い見学コースを教えてもらう。入るとすぐ、崖に掘られた「百尺観音」が現れる。パーミヤンの石窟を連想させる30m余りの観音像は圧巻だ。ここはもう観光地。山頂展望台の地獄のぞきは行列だ。外国人が多く先端で1人ずつ写真を撮っている。上から撮っても迫力ないのに早くしてと思いつつ並んでみる。浦賀水道越しに三浦半島が望まれる。次は石仏では日本一と言われる31mの大仏だ。千五百羅漢道に行く。どこまでも階段が続き、数えきれないほどの伊豆石に彫られた石仏が並んでいる。大仏広場で石大仏さまを拝み、すぐ下の東口からバスに乗って金谷港へ向かう。東京湾フェリーで浦賀水道を横切る久里浜港まで40分の船旅だ。上陸すると渋滞に備えコンビニで食料を調達する。保土ヶ谷辺りで渋滞にはまるが運転手に任せ、夢うつつで帰る。

参加者：15名（静岡北1、藤枝14）

天候：晴

地図：保田・大多喜

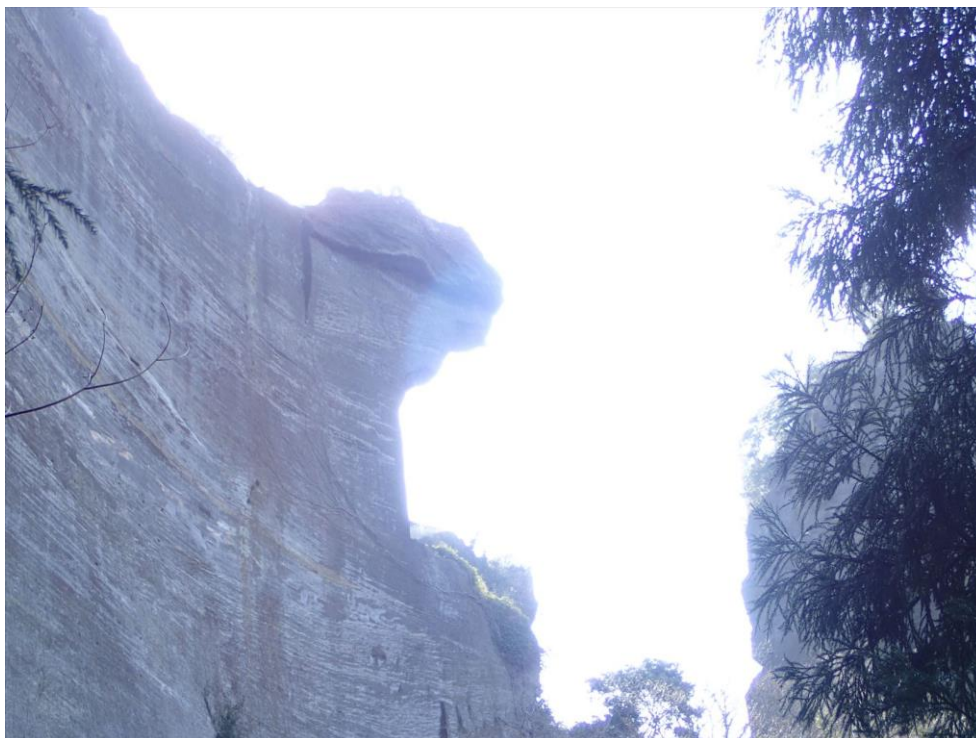
コースタイム：藤枝 530＝海ほたる PA950-1020＝田淵会館(チバニアン) 1106-40＝浜金谷駅 1245…車力道…石切場跡 1400…北口 1425…鋸山日本寺…東口 1550＝金谷港 1600-1630＝東京湾フェリー＝久里浜港 1715＝藤枝 2150

藤枝記録：藤枝支部 ゆ記

77万年前の地磁気逆転地層「チバニアン(千葉時代)」



鋸山日本寺「地獄のぞき」



房州石の石切場跡

